

阿久和川【まほろば地区】河川環境再整備計画

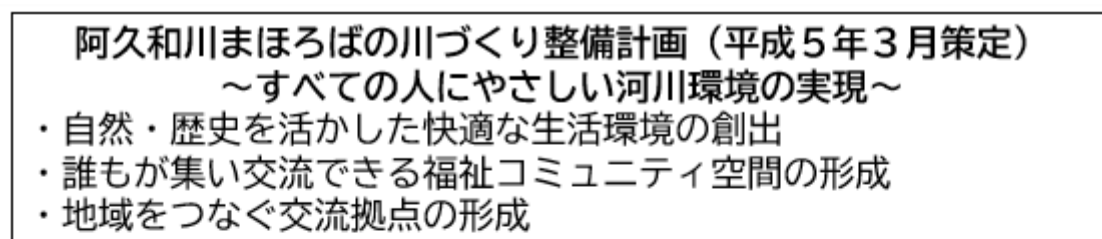
令和8年9月

横浜市下水道河川局

目次

計画の概要	1
第1章 阿久和川まほろば地区河川環境再整備計画について	2
(1) 計画策定の背景と目的	2
(2) 対象範囲	3
(3) 計画の位置付け	4
(4) 上位計画及び関連計画	4
第2章 流域及び河川の概要	7
(1) 流域の状況	7
(2) 生き物や水質の状況	10
(3) 河川の状況	15
第3章 まほろば地区の概要	19
(1) 当初整備のコンセプト	19
(2) まほろば地区周辺の概要	23
第4章 再整備検討拠点における現状・課題	26
(1) まほろば地区の現状	26
(2) 各拠点における現状	27
(3) まほろば拠点の景観・デザイン	29
第5章 本計画の検討経緯	32
(1) 地域の意見の反映	32
(2) CVM アンケート調査による便益・価値評価	35
第6章 まほろばの再整備方針	39
(1) 再整備対象拠点の考え方	39
(2) 再整備のテーマ	39
(3) 再整備の方針（川づくりのコンセプト）	40
(4) 施設再整備にあたっての基本的な考え方	41
(5) まほろばでの体験と役割	42
(6) 各拠点の検討	43
(7) まほろば再整備全体イメージ	49
(8) 拠点間の連携と回遊性の考え方	50
(9) 再整備後の利活用に関する基本的な考え方	50
第7章 今後のスケジュール	51

計画の概要



整備・活用

現状・課題

- ・ 地域活用ニーズの増大
- ・ 河川を取り巻く環境の変化
- ・ 施設の老朽化 など



阿久和川【まほろば地区】河川環境再整備計画

～ひと・まち・生きものがつながる川づくり～

- ・ みんなにやさしい川
- ・ 地域とともに育む川
- ・ 自然とともに生きる川

視点

自然

景観

安全

地域

利用

安全・安心利用	地域交流の場の創出	かわまちづくり
環境教育の場の創出	にぎわい創出	維持管理の容易性
ユニバーサルデザイン 促進	ネイチャーポジティブ	市民協働

第1章 阿久和川まほろば地区河川環境再整備計画について

(1) 計画策定の背景と目的

近年、気候変動の進行に加え、生物多様性の回復を目指すネイチャーポジティブや、人々の心身の健康や幸福度の向上を重視するWELL-BEINGの考え方の広がりなどを背景に、河川水辺環境を取り巻く社会的状況は大きく変化している。河川は、治水・利水といった従来の機能に加え、自然環境の保全・創出や、地域住民の暮らしや健康を支える場として、時代に応じた新たな役割が求められるようになってきている。

さらに、横浜グリーンエクスポの開催を控え、自然と共生する持続可能な社会の実現に向けた取組を地域において具体化していくことが重要性を増しており、河川空間に対する期待も一層高まっている。

阿久和川まほろば地区においては、平成4年度に建設省（現：国土交通省）から認定を受けた「まほろばの川モデル事業」に基づく整備により、子どもから高齢者、障害者を含む誰もが自然と触れあえる場として、多くの利用が図られてきた。一方で、近年、子育て世代を含む多様な利用者による河川空間への関心の高まりや、地域における防災意識の変化を背景として、安全に水と親しむことのできる場や、日常的に人々が集い交流できる地域の拠点としての活用を求める声が高まっている。また、河川空間に求められる役割も多様化するなど、河川を取り巻く環境が変化している。加えて、整備から約30年が経過し、施設の老朽化も進行していることから、再整備の必要性が高まっている。

このような状況を踏まえ、本計画は、横浜グリーンエクスポの開催や泉区制40周年を好機と捉え、地域住民等と連携しながら、安全性・利便性の向上と魅力ある水辺空間の創出を目指して策定するものである。また、「阿久和川まほろば地区かわまちづくり計画」における具体的な河川空間の整備内容を示し、様々な世代の人々が自然環境に触れながら安全・安心に交流できるにぎわいのある水辺空間として再整備することにより、地域の暮らしの質を高める「WELL-BEINGな川づくり※」を推進することを目的とする。

※WELL-BEING な川づくり

川づくりを通じて、「人」が健康で幸福感を感じ、多様な「生物」が生き生きと生息できる。また、「川」自体が常に健全な状態を維持し、治水安全度も高まり安心して暮らすことができる。さらには、「まち」全体の魅力が向上する。このような状態を目指すこと。

(2) 対象範囲

本計画の対象範囲は、阿久和川のまほろばの川づくり区間において整備された5つの親水拠点とする。

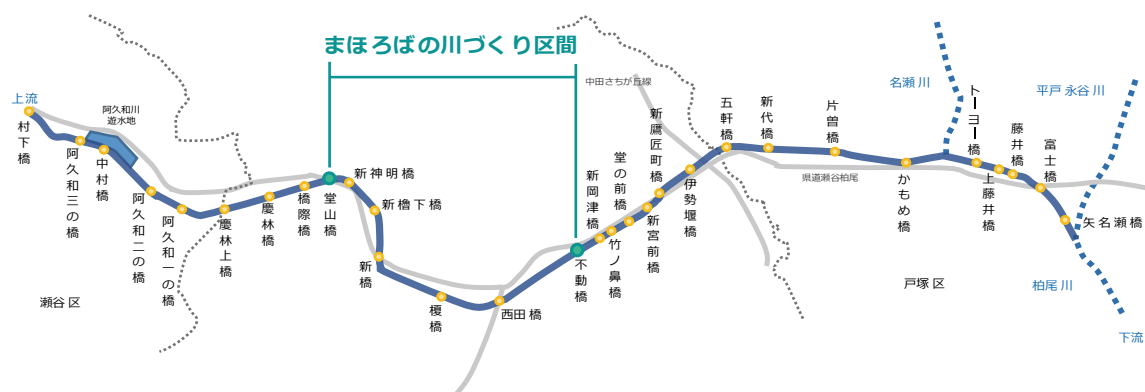


図 1.2.1 阿久和川の範囲

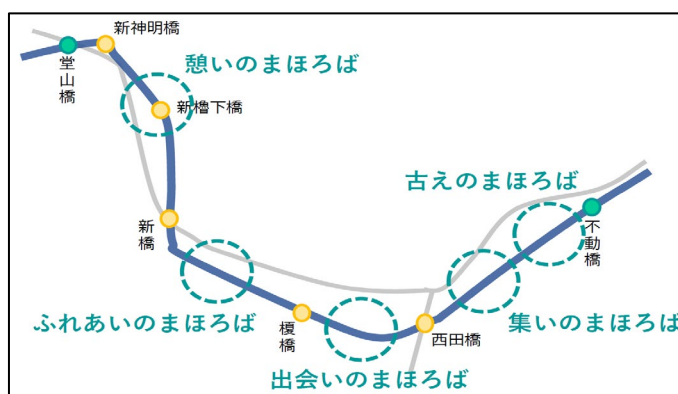


図 1.2.2 親水拠点位置図

(3) 計画の位置付け

本計画は、境川水系河川整備計画との整合を図るとともに、「横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針」に示された基本方針を踏まえ、まほろば地区における河川環境再整備の方向性及び具体的な整備内容を示すものであり、「阿久和川まほろば地区かわまちづくり計画」の具体的な整備内容を示すものである。

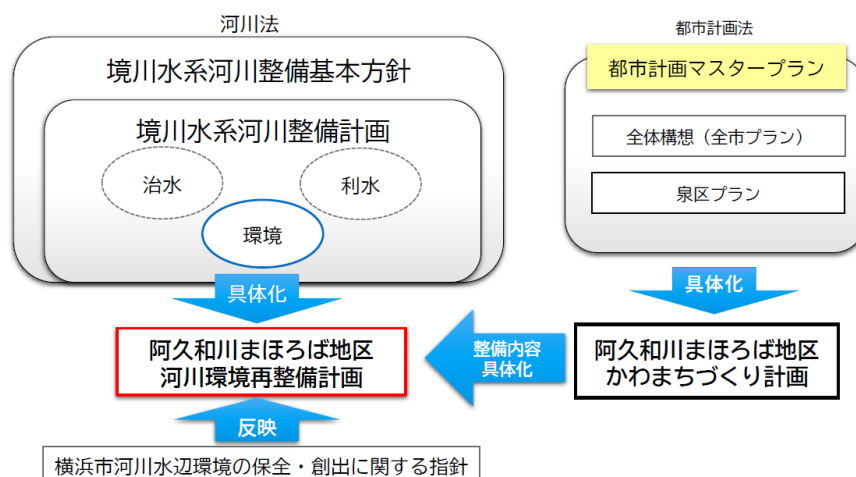


図 1.3.1 計画の位置付け

(4) 上位計画及び関連計画

1) 境川水系河川整備計画（平成 27 年 4 月策定）

境川水系河川整備計画では、計画対象期間内において整備目標流量を安全に流下させることを目的に、河道整備および洪水調節施設の整備等を推進することとしている。本市が管理する河川、また河川法第16条の3に基づき本市が河川工事および維持を施行する河川については、神奈川県と連携し、現行整備を着実に進めるとともに、効率的・効果的な治水対策を図るものとされている。

併せて、河川整備にあたっては多自然川づくりを基本とし、生物多様性の観点から生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河川環境の保全・再生を推進するとともに、都市部における貴重なオープン空間として、親水施設や管理用通路の活用など、市民が親しみ憩える水辺空間の創出を図ることが位置付けられている。

本計画は、これらの方針を踏まえ、良好な河川環境の形成、地域に開かれた水辺空間の創出を一体的に進めるものとする。

2) 横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針（令和8年3月策定）

令和8年3月に、市内の良好な河川水辺環境を保全・創出していくことを目的として、「横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針」を策定した。本事業は、そのリーディング事業として、①快適 ②オープン ③ネイチャーポジティブの3つの基本方針を掲げ、WELL-BEINGな川づくりを実践し、良好な河川水辺環境の保全・創出を図っていく。

横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針

①快適 ～誰もが過ごしやすい河川水辺環境～

散策やレクリエーション、休憩など、地域に潤いと安らぎをもたらす場として、誰もが安心・安全で、快適に過ごすことができ、人々を惹きつける河川水辺環境の保全・創出を目指す。

②オープン ～多様な形で関われる河川水辺環境～

市民や企業、学校など、多様な主体と連携し、持続可能でにぎわいのある河川水辺環境の保全・創出を目指す。

③ネイチャーポジティブ ～自然回復に貢献する河川水辺環境～

生態系ネットワークの重要な基盤として、生物の生息・生育・繁殖環境を確保し、自然回復に貢献する河川水辺環境の保全・創出を目指す。

3) 都市計画マスタープラン（全市プラン）（令和7年5月改定）

都市計画マスタープラン（全市プラン）では、地域資産を生かしたにぎわいの創出や、水とみどりを身近に感じられる環境形成の中で、河川の自然環境の活用や水辺空間の保全・整備、かわまちづくりの推進が位置付けられている。また、多様な生物の生息・生育環境の確保や水質の改善を図るとともに、交流や潤いを生む空間づくりの推進が示されている。

本計画は、これらの方針を踏まえ、河川空間の環境および利用機能を一体的に高め、地域の魅力向上に資する良好な水辺環境の形成を図るものとする。

4) 都市計画マスタープラン（泉区プラン）（平成28年11月改定）

都市マスタープラン（泉区プラン）では、水とみどりを生かした良好な住環境の形成を基本とし、河川や緑地を地域の骨格となる空間として位置付け、潤いとやすらぎのあるまちづくりを進めることとしている。また、身近な自然環

境を活用した交流の場の創出や、災害に強く安全・安心な都市空間の形成、地域主体によるまちづくりの推進が示されている。

本計画は、これらの方針を踏まえ、河川空間を地域の貴重なオープン空間として位置付け、治水機能の確保とともに、自然環境や景観に配慮した水辺空間の整備を通じて、地域に親しまれ、暮らしの質の向上に寄与する河川環境の創出を図るものとする。

5) 阿久和川まほろば地区かわまちづくり計画（令和8年6月策定）

阿久和川まほろば地区かわまちづくり計画では、河川空間とまちが一体となった魅力ある水辺空間の創出を基本に、自然環境の保全・創出を図りながら、地域のにぎわいや交流を生み出す場の形成を目指すこととしている。また、地域住民や関係団体等の多様な主体が関わる持続的な維持管理・活用を通じて、地域に根ざした水辺の魅力向上を図ることが示されている。

本計画は、これらの方針を踏まえ、良好な水辺環境の創出とともに、河川空間の魅力向上に資する整備や利活用の検討を進め、河川とまちが一体となった空間形成を推進するとともに、地域資源としての河川の価値を高め、にぎわいと憩いを兼ね備えた水辺環境の実現を図るものとする。さらに、かわまちづくり計画におけるハード整備の具体的な内容を整理し、その方向性を示すものとする。

第2章 流域及び河川の概要

(1) 流域の状況

1) 位置及び水系

阿久和川は瀬谷区三ツ境付近を源流とし、瀬谷区、泉区、戸塚区にわたって流れる延長5.51km、流域面積14km²の境川水系の二級河川である。戸塚区上矢部町で平戸永谷川と合流して柏尾川となり、藤沢駅近くで境川と合流し、江ノ島まで流れていく。

本市では、河川法16条の3に基づき神奈川県と協議し、柏尾川合流点から村下橋付近までの区間について河川工事及び河川の維持を行っている。

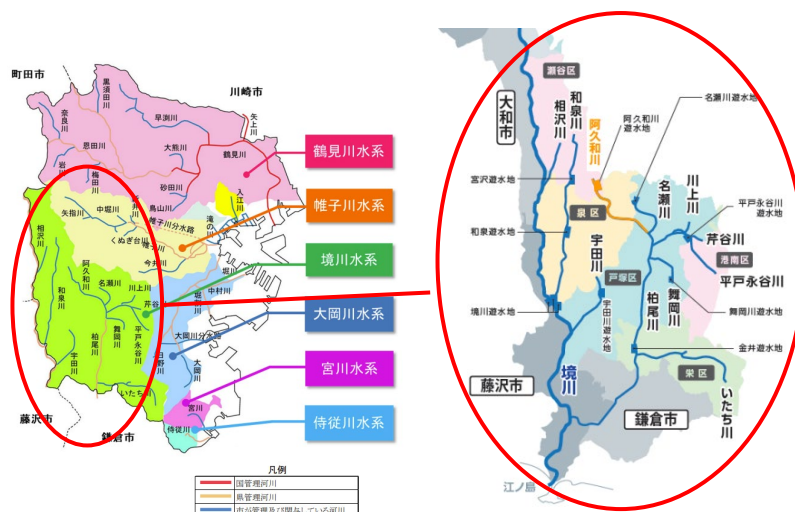


図 2.1.1 阿久和川の位置図

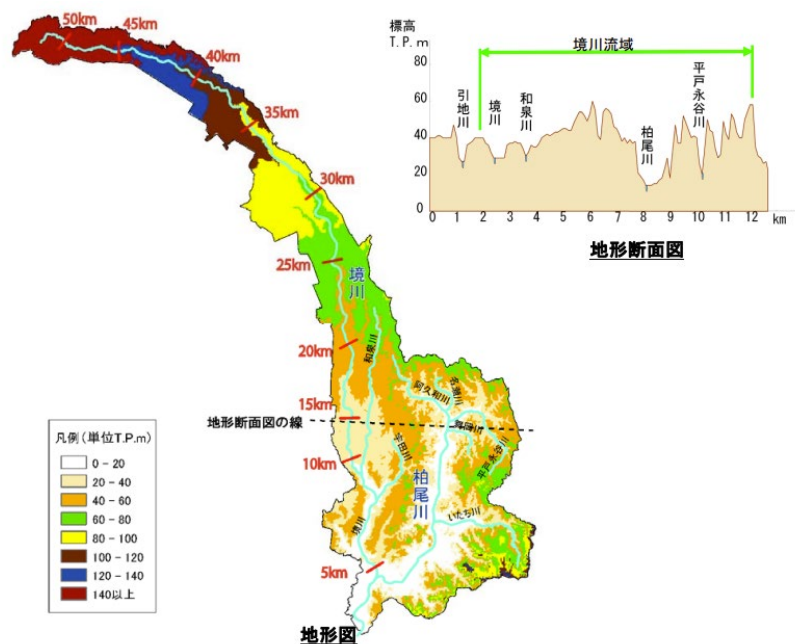


図 2.1.2 阿久和川の範囲

2) 地形地質

阿久和川の属する境川流域の地形は、小起伏丘陵地及び河川の氾濫原に該当する扇状地性低地に属し、比較的平坦な地形となっている。

また、境川流域の中の柏尾川流域では多摩ローム層に覆われており、川沿いには沖積層が分布している。



出典：境川水系河川整備計画

図 2.1.3 地形図

3) 気候

境川流域の気候は、暖流が流れる相模湾に面している影響により比較的温暖で、夏季は降水量が多く、冬季は乾燥した晴れの日が多い。年平均気温は 16℃ 前後であり、年降水量は 1,700～2,000mm 程度となっている。

4) 人口

横浜市 : 3, 771, 185人 (令和8年4月1日時点)

境川流域内の人口 : 約158万人 (※平成22年度時点)

(境川水系河川整備計画より)

阿久和川流域の人口※ : 552, 716人 (令和8年4月1日時点)

※瀬谷区、泉区、戸塚区の人口合計

5) 土地利用変遷と歴史文化

境川流域では、昭和30年代前半から市街化が進み、田畑が減少しアスファルトや街がコンクリートに覆われていくなどで、土地利用形態が大きく変化した。その結果雨水の保水・湧水機能が著しく低下し、水害が多発するようになった。そのため、境川流域では水害を防止するために総合治水対策※が進められている。

※総合治水対策

河道や遊水地等の整備を行う河川対策と、雨水の貯留施設や防災調整池の設置、盛土の抑制等の流域対策を合わせて総合的にを行い、流域全体として洪水被害の軽減・防止をめざすもの。

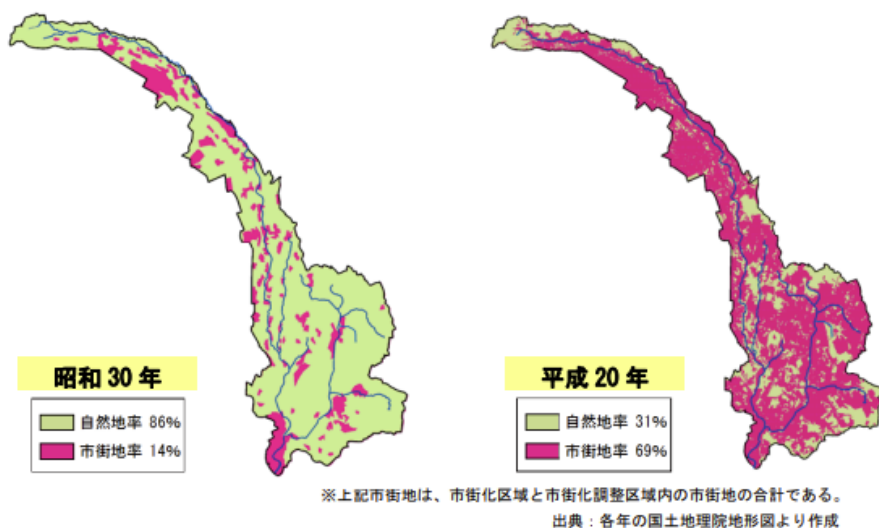


図 2.1.4 境川流域の市街地の変遷

6) 交通

流域には、東海道新幹線、相鉄いずみ野線等の鉄道が横断している。また、県道瀬谷柏尾、横浜新道等の幹線道路が横断している。

(2) 生き物や水質の状況

1) 阿久和川に生息している生き物

① 横浜の川と海の生物（第 16 報・河川編）より

本市では、3～4年に一度の頻度で、市内を流れる6水系（鶴見川、帷子川、大岡川、境川、宮川、侍従川）を対象に、魚類・底生動物・水草・付着藻類・水質等の調査を行っている。令和5年度（夏季）に行った調査において、まほろば地区に近い調査地点である子易川付近では以下の生き物が確認された。

調査地点 ・調査年	子易川 ・令和5年7月
魚類	コイ・オイカワ・アブラハヤ・ドジョウ・ミナミメダカ ・シマヨシノボリ
昆虫	サホコカゲロウ・フタバカゲロウ属・ハグロトンボ・コオニヤンマ ・コシボソヤンマ・コヤマトンボ・シオカラトンボ・アメンボ ・シマアメンボ・コガタシマトビケラ・アオヒゲナガトビケラ属 ・ヤマトヒメユスリカ属
甲殻類	フロリダマミズヨコエビ・カワリヌマエビ属・サワガニ
貝類	カワニナ・サカマキガイ・ヒラマキミズマイマイ

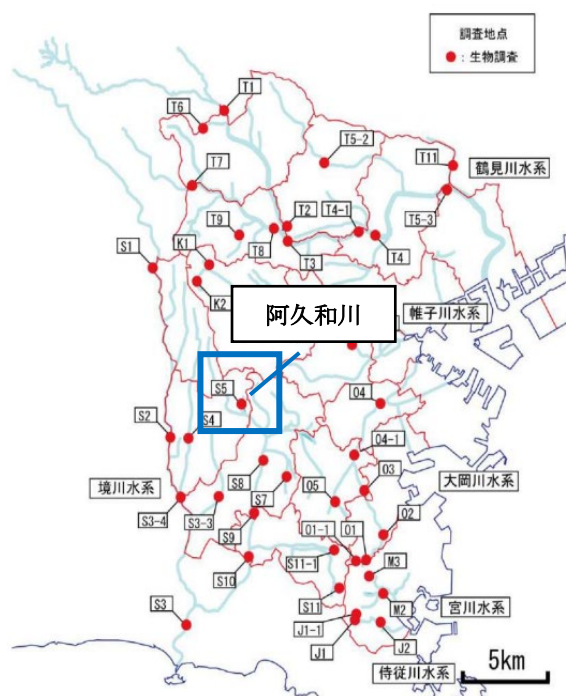


図 2.2.1 調査地点

② ワークショップでの生き物調査より

まほろば地区付近の小学校においてワークショップを実施（ワークショップの概要は第5章(1) 1) に記載）し、生き物調査を行った。その際確認できた生き物は以下の通りである。

調査地点・ 調査年	阿久和川（ふれあいのまほろば、集いのまほろば） ・令和7年10月
魚類	カワムツ・オイカワ・ドジョウ・アブラハヤ・ミナミメダカ ・ウキゴリ・ヌマチチブ・ヨシノボリ
昆虫	コシボソヤンマ・コオニヤンマ・ヤマサナエ・ハグロトンボ ・アメンボ・サナエトンボ・イトトンボ
甲殻類	テナガエビ・アメリカザリガニ・カワリヌマエビ・モクズガニ
貝類	カワニナ

オイカワ、アブラハヤやカワムツなどの魚類が多数生息し、ミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、神奈川県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠA類）のような貴重な種のほか、モクズガニなど海から遡上してくる種も確認された。また、ホタルの餌となるカワニナや多数のトンボ類など市民にも身近な種類も確認されているなど、豊かな河川環境となっている。

2) 阿久和川の水質

① 生活環境保全推進ガイドライン年次報告書（2024年度実績）より

阿久和川の水質は、令和2年度に新橋地点（泉区新橋町）と上藤井橋（戸塚区上矢野町・名瀬町）で観測されており、水の汚れ指標となる「BOD(75%値)」は令和2年度で、新橋地点が1.7mg/L、上藤井橋地点が1.4 mg/Lとなっており、水と緑の基本計画の達成目標値(3mg/L)を下回り、良好な水環境となっている。

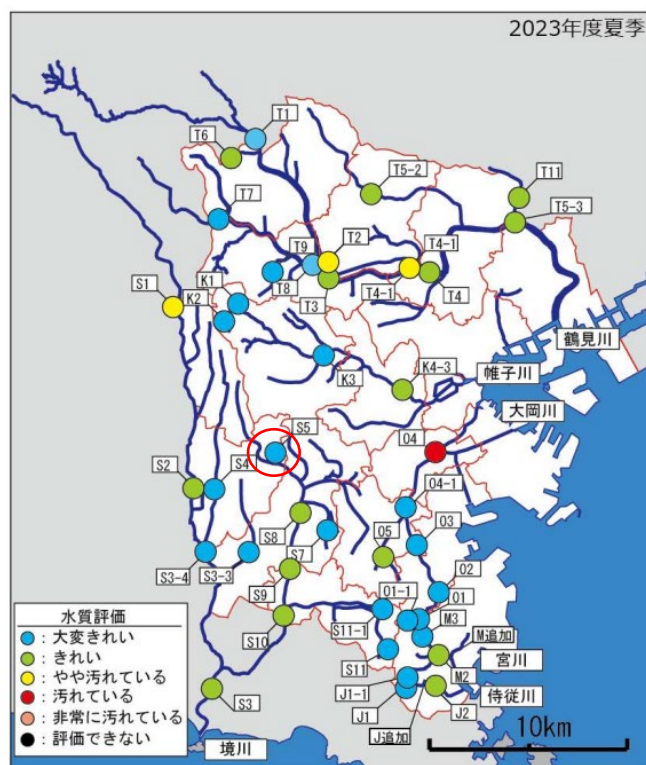
② 横浜の川と海の生物（第16報・河川編）より

阿久和川付近を流れる子易川で行った水質調査において、令和5年7月13日時点でBOD値は1.4 mg/Lを示していた。

表 2.2.1 調査データ

水系名	境川水系								
河川名	和泉川	宇田川	子易川	舞岡川	柏尾川	柏尾川	稲荷川	いたち川	柏尾川
調査地点番号	S4	S3-3	S5	S7	S8	S9	S11	S11-1	S10
調査地点名称	地藏原の水辺(理橋)	まさかりが淵	岡 津	宮根橋上流	大 橋	栄第二水再生センター下流	杉之木橋上流	瀬上沢	鹿匠橋
流域区分	中・下流域	中・下流域	源・上流域	源・上流域	中・下流域	中・下流域	源・上流域	源・上流域	中・下流域
調査年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年
調査月日	7月13日	7月13日	7月13日	7月13日	7月13日	7月13日	7月20日	7月20日	7月13日
調査時刻	10:05	10:51	9:37	14:00	13:40	12:06	10:05	9:30	11:30
天気	雨	曇り	雨	曇り	曇り	曇り	曇り	晴れ	曇り
気温(℃)	25.0	26.2	26.3	26.6	30.5	28.1	28.2	27.4	28.5
水温(℃)	23.3	24.4	23.3	22.3	25.4	27.4	20.6	26.5	26.4
pH	7.9	8.0	7.5	8.0	7.9	7.7	7.9	7.8	7.9
電気伝導度(mS/m)	35	33	2.3×10^2	30	50	39	83	32	49
溶存酸素量(mg/L)	8.4	7.6	7.4	7.3	8.1	6.7	9.9	6.8	6.5
透明度	95	100以上	100以上	63	53	100以上	100以上	100以上	100以上
BOD(mg L ⁻¹)	1.5	1.5	1.4	1.2	1.7	5.3	0.4	1.3	3.7
NH ₄ -N(mg L ⁻¹)	<0.07	<0.07	0.10	<0.07	<0.07	1.8	<0.07	<0.07	0.62
NO ₂ -N(mg L ⁻¹)	<0.03	0.05	0.24	<0.03	<0.03	0.28	<0.03	<0.03	0.37
NO ₃ -N(mg L ⁻¹)	3.3	3.2	8.0	1.8	2.2	5.2	0.24	0.41	5.3
TN(mg L ⁻¹)	3.4	3.4	8.4	1.9	2.3	7.3	0.34	0.51	6.3
PO ₄ -P(mg L ⁻¹)	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	0.08	<0.06	0.06	0.22
SO ₄ -S(mg L ⁻¹)	11	12	43	6.6	14	10	67	10	16
Cl(mg L ⁻¹)	10	18	5.4×10^2	9.8	52	38	10	12	44
Br(mg L ⁻¹)	0.2	0.2	4.5	<0.2	0.4	0.2	<0.2	<0.2	<0.2
Na(mg L ⁻¹)	12	17	2.9×10^2	10	36	38	13	14	35
K(mg L ⁻¹)	1.3	2.7	97	1.1	9.0	9.0	2.2	3.6	7.8
Mg(mg L ⁻¹)	12	9.3	22	11	13	6.4	26	11	9.5
Ca(mg L ⁻¹)	39	37	1.0×10^2	29	43	25	1.3×10^2	37	44

また、調査で確認された生物種より本市の生物指標を用いて水質評価を行った結果が以下の図の通りである。阿久和川付近の子易川（S5）では「大変きれい」という評価結果となった。



出典：横浜の川と海の生物（第16報・河川編）

図 2.2.2 指標生物による水質調査（2023 年夏季）

③ 水質調査（ワークショップ）より

生き物調査同様、小学生を対象としたワークショップの中でCODパックテストによる水質調査を実施した。その際、阿久和川の水質は0～2mg/L (ppm)の数値を示し、「きれいな水～普通の水」であることが示された。

※水質調査（ワークショップ）

実施月日：令和7年10月22日、27日、29日

水の採取場所：集いのまほろば、ふれあいのまほろば

（それぞれのクラスの教室にて調査を実施）

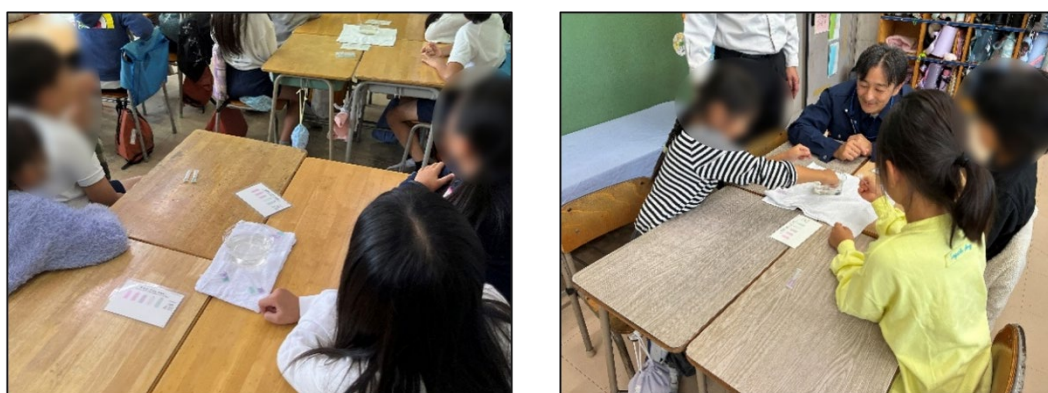


写真 2.2.1 ワークショップでの水質調査の様子

(3) 河川の状況

1) 流量・水位

阿久和川（境川水系）では平成27年4月に境川水系河川整備計画が策定されている。境川水系における都市洪水対策は、年超過確率1/10（時間雨量概ね60mm）の規模の洪水を安全に流下させることを目標としている。

阿久和川伊勢堰橋地点の水位観測結果をもとにした平水位は令和5年度で10cm（TP+14.850m）程度である。



図 2.3.1 観測所位置図

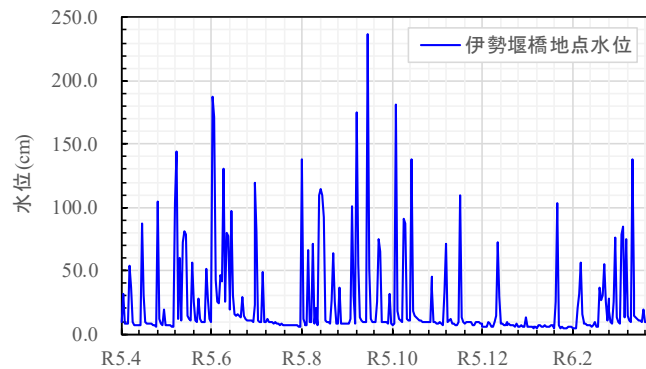


図 2.3.2 伊勢堰橋地点年間水位変化

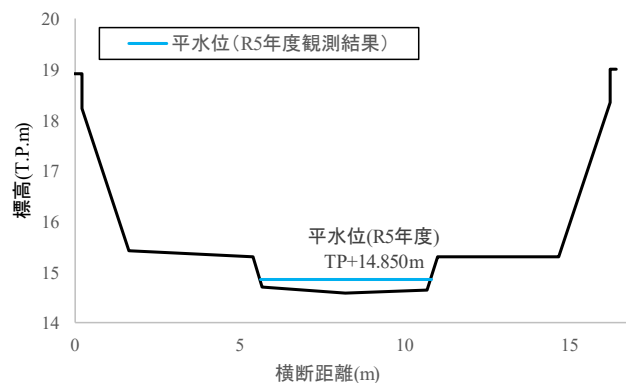


図 2.3.3 伊勢堰橋地点 断面図

2) これまでの河川改修

昭和46年度から都市小河川改修事業（現：都市基盤河川改修事業）により阿久和川の河川改修に着手し、改修計画区間は戸塚区の柏尾川合流点から瀬谷区の村下橋付近となっている。令和7年度末時点で、泉区の橋際橋までの河川改修が進んでいる。



図 2.3.4 阿久和川河川改修計画区間



写真 2.3.1 河道拡幅の例

3) 阿久和川の河川環境整備事業

① まほろばの川づくりモデル事業

高齢化社会等に対応した「すべての人にやさしい河川環境の実現」を目標とした、建設省河川局（現：国土交通省）の新規施策として、平成5年度から「まほろばの川づくりモデル事業」は始まり、本市では、平成4年度に関係各局、区及び地元住民の声を取り入れるとともに、福祉関係専門家の助言を踏まえながら「阿久和川まほろばの川整備計画」を策定し、平成5年3月31日に国の認定を受けた。対象区間は、泉区堂山橋～不動橋間の約1.5kmで、河川改修に併せて地域の人々の豊かな暮らしを支える施設整備を行った。

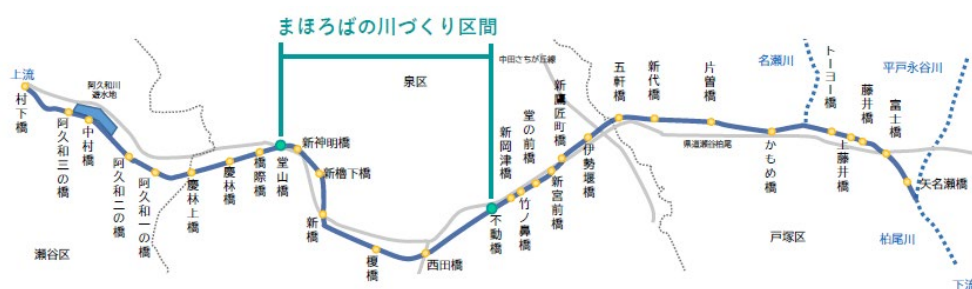


図 2.3.5 阿久和川まほろば位置図

② 阿久和川の戸塚区間における環境整備

戸塚区上矢部町では、阿久和川への関心が高く、平成15年に地域住民の方と阿久和川の環境整備について考えるワークショップを実施し、環境整備基本計画を作成した。基本計画では「水・人・緑AQUAさんぽ道～守（護）る、育む、集う～」をテーマとし、阿久和川の戸塚区間を「保全ゾーン」、「生きもののゾーン」、「あそびゾーン」の3つに分けてゾーニングを行った。その中で、低水路の配置や柏尾川合流部から五軒橋までの区間を川辺の散歩道とすることを決定した。

この計画に基づき、低水路の整備や「アクアランド」などの拠点の整備等を行った。また、散策しやすいよう未舗装だった河川管理用通路の整備や転落防止柵の更新等も実施しました。

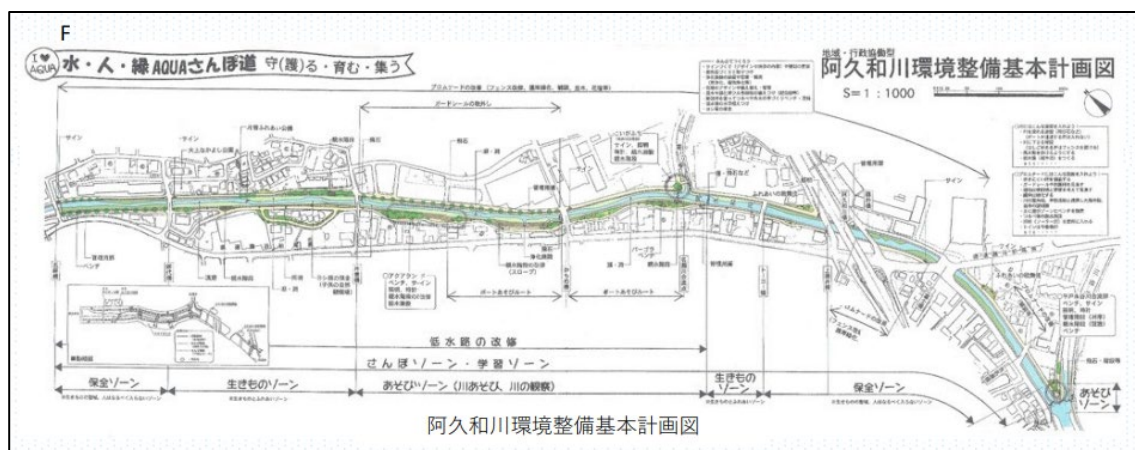


図 2.3.6 阿久和川環境整備基本計画図



写真 2.3.2 アクアランド



写真 2.3.3 低水路整備

第3章 まほろば地区の概要

(1) 当初整備のコンセプト

まほろば地区整備における対象区間は、改修区間の中程にあたる泉区堂山橋～不動橋間約1.5kmとなる。阿久和川まほろばの川づくりモデル事業において、以下の3つの川づくりのコンセプトを定め、整備を行い、5つの拠点は、それぞれにコンセプトを設けて整備を進めてきた。

- ① 高齢者・障害者・幼児等を含むすべての人々が集い、遊び、交流する福祉環境要素として機能する川
- ② 自然・歴史などを活かしたアメニティ空間として、地域の生活環境向上に役立つ川
- ③ 川を軸とした安全な移動ネットワークの形成により、地域の結びつきを強める要素として役立つ川

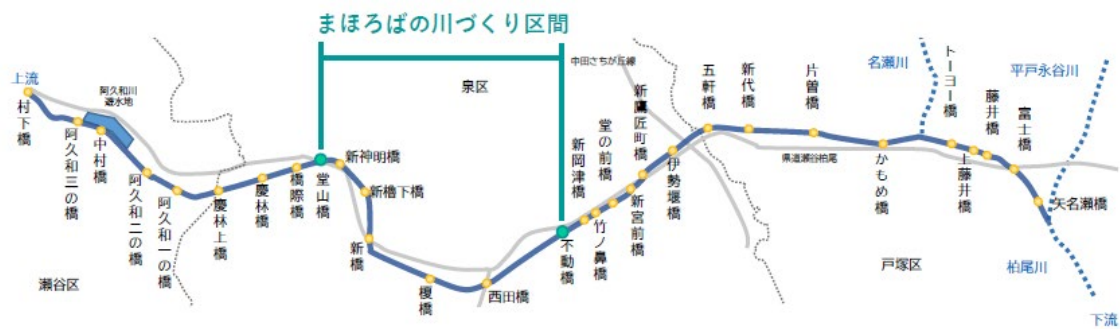


図 3.1.1 阿久和川まほろば位置図

1) 古えのまほろば

「水音のざわめきに包まれて、街の歴史を味わう水辺空間」

- ・ かつての大山道の雰囲気の色濃く残す不動橋周辺の特性を活かし、歴史的風情を味わえる水辺の散策・休息空間を創出する。
- ・ 計画区間上流部からの連続的な利用を誘引する。
- ・ 河道内での水遊び等の活動的な施設よりも河畔の施設整備及び歴史的イメージを創出する質の高い景観整備に重点を置く。
- ・ 水辺のアクセントとして多段式の落差工を設置し、水温や水流の変化によって潤いのある空間を創出する。



写真 3.1.1 整備当初の古えのまほろば

2) 集いのまほろば

「老人から子どもまで地域の人々が集い、活動する水辺のにぎわい空間」

- ・ ある程度まとまりのある平場が確保できる貴重な場所であることから、“集いの水辺広場”を創出する。
- ・ 広場では地域のイベントや、川を活かした老人と子供たちの交流行事の導入を目指す。
- ・ “集いの水辺広場”の一部として水際の活動を可能とする親水デッキと、高齢者や障害者でも安全にアクセスできるようにスロープを整備する。



写真 3.1.2 整備当初の集いのまほろば

3) 出会いのまほろば

「日々の暮らしの中で人と川が出会い、また人と人が出会う水辺空間」

- ・ 駅や地区センターからの動線、河岸及び河道内の連続的な動線を受け止める散策活動の結節点（休憩拠点）を整備することで、日常的な“出会いの空間”を創出する。
- ・ 親水デッキを整備し、誰もが安全にアクセスできるようにスロープを用意する。



写真 3.1.3 整備当初の出会いのまほろば

4) ふれあいのまほろば

「自然のやさしさとのふれあい、人々のふれあいが感じられる水辺空間」

- ・ 左岸背後の斜面林や湿地環境を活かし、自然との高い水辺空間を創出する。
- ・ 水際部を積極的に利用・活用する施設の整備に重点を置き、だれでもが気軽に水辺の自然をふれあえる空間づくりを行う。
- ・ 高齢者や障害者が安全に水辺へアクセスでき、また水際での休息。活動ができるようにスロープ、親水デッキを設置する。



写真 3.1.4 整備当初のふれあいのまほろば

5) 憩いのまほろば

「昔ながらの街並みの雰囲気にとっとり浸りながら、水辺で憩う空間」

- ・ 長屋門のたたずまい、旧来の玉石護岸、背後の竹林、斜面林などを活かしながら、落ち着きと潤いに満ちた川辺の散策・休息空間を創出する。
- ・ 魅力ある“憩いの空間”づくりのよって、計画区間下流部からの連続的な利用、緑園都市等の開発力の利用を誘引する。
- ・ 河道内で水遊び等の活動的な施設よりもむしろ、快適な散策路、休息場所といった河畔の施設整備、景観整備に重点を置く。

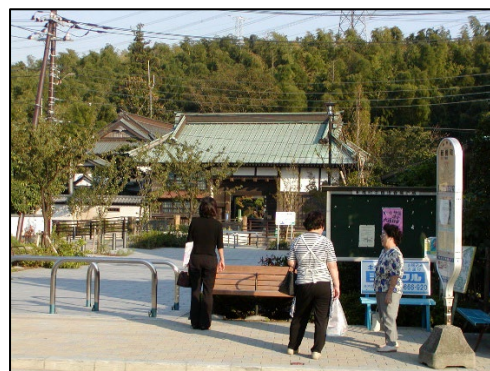


写真 3.1.5 整備当初の憩いのまほろば

(2) まほろば地区周辺の概要

横浜市の南西部に位置する泉区は豊かな田園地帯が点在していたことから、市内でも緑が多く“まほろば性”の高い区として位置付けられた。

1) 水辺愛護会の活動状況

「集いのまほろば水辺愛護会①」、「ふれあいのまほろば水辺愛護会②」「憩いのまほろば水辺愛護会③」は、まほろば地区を中心に活動を行っている。また、阿久和川の戸塚区間においては、平戸永谷川合流点からトーヨー橋区間で活動を行う「名瀬第一町内会ふれあいの歌舞岐水辺愛護会」やトーヨー橋から五軒橋区間で活動を行う「AQUAかるがも隊」が活動している。

これらの水辺愛護会の活動により、阿久和川の良い水辺環境が守られるとともに、地域の人々が交流する貴重な機会が生み出されている。



図 3.2.1 水辺愛護会活動図

① 集いのまほろば水辺愛護会

西田橋から不動橋の区間で活動を行う集いのまほろば水辺愛護会は、平成10年に結成された。河川の清掃、除草や集いのまほろばのトイレ清掃等の活動が実施されている。令和5年度に日本河川協会より「河川功労者表彰」を受賞した。

② ふれあいのまほろば水辺愛護会

新橋から西田橋の区間で活動を行うふれあいのまほろば水辺愛護会は、平成20年に結成された。河川の清掃、除草等の活動が実施されている。

③ 憩いのまほろば水辺愛護会

堂山橋から新橋までの区間で活動を行う憩いのまほろば水辺愛護会は平成13年に結成された。河川の清掃、除草や憩いのまほろばのトイレ清掃等の活動

が実施されている。令和7年度に日本河川協会より「河川功労者表彰」を受賞した。

2) 自治会・町内会

まほろば地区が位置しているのは、中川連合町内会及び新橋連合自治会の区域である。

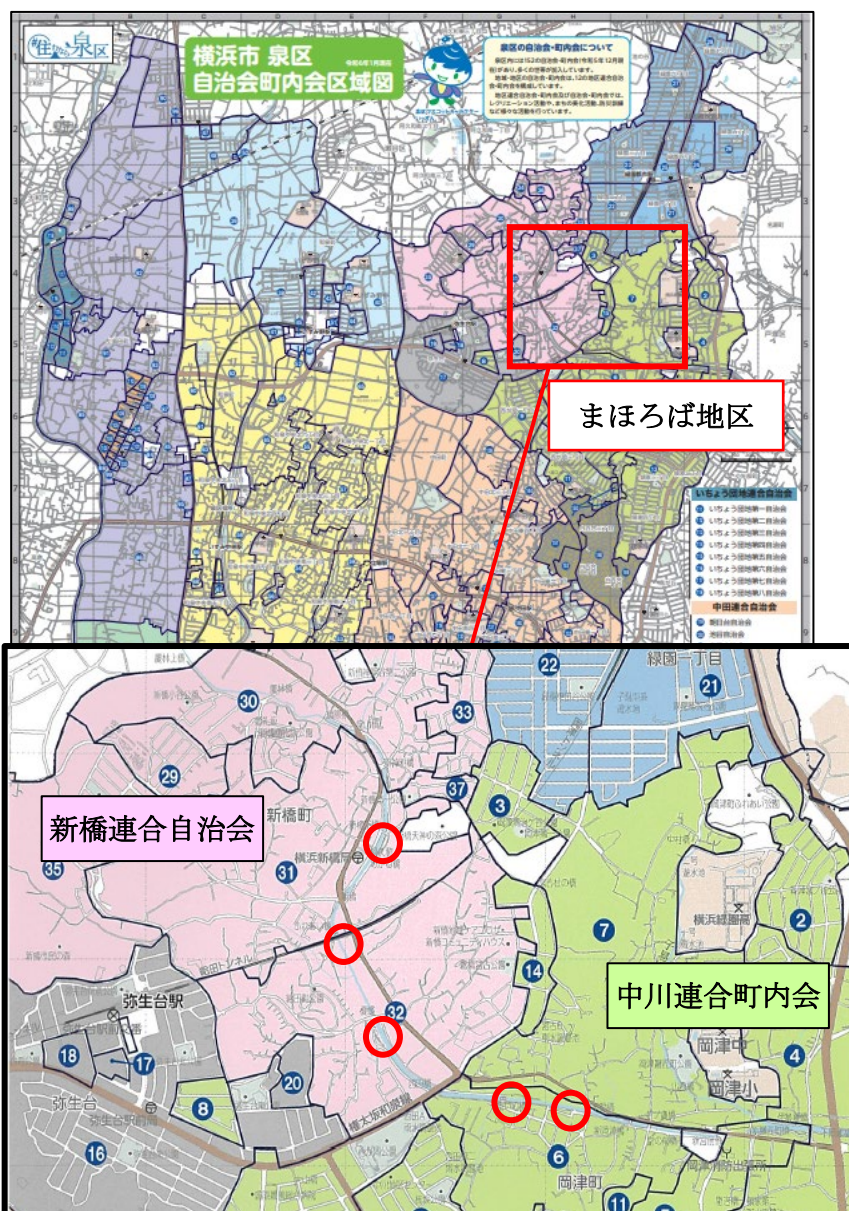


図 3.2.2 泉区自治会・町内会区域図

3) 歴史・文化

① 大山道

戸塚区から伊勢原市の大山阿夫利神社（おおやまあふりじんじゃ）へ、ほしのや道は、南区の弘明寺（ぐみょうじ）（弘明寺観音）から座間市の星谷寺（しょうこくじ）（星の谷観音）へ参詣者が通った古道である。永明寺別院前にある不動明王像道標には、台石の正面に「大山道」、右面に「右ほしのやミち」と記されている。この道標は不動橋の南西のたもとにあったものを移設したものである。

② 永明寺（ようめいじ）

曹洞宗大本山総持寺の孫末寺（まごまつじ）で、本尊として聖観世音菩薩木立像を安置している。古文書等には、天文11年（1542）「岡津郷領主太田越前守入道宗真（そうしん）（伝・太田道灌の孫）」の創立と記載がある。大正12年（1923）の関東大震災の時、現別院の地に移転し、平成4年（1992）に現在地（旧跡地山上）に諸堂が落成した。

③ 中丸家長屋門

明治時代中頃に建築された木造2階建の長屋門は、平成13年度に、「横浜市認定歴史的建造物」に選ばれた。また、「中丸家長屋門とその周辺」が「横浜・人・まち・デザイン賞（まちなみ景観部門）」を受賞するなど、泉区を代表する建築物のひとつとなっている。



写真 3.2.1 憩いのまほろば（中丸家長屋門）

第4章 再整備検討拠点における現状・課題

(1) まほろば地区の現状

まほろば地区は、平成5年度から「まほろばの川づくりモデル事業」として整備されて以降、誰もが水辺に親しめる先進的な河川空間として、地域住民に長く活用されてきた。現在においても、豊かな水環境や生き物の生息、歴史的資源と調和した景観など、阿久和川ならではの価値が維持されている。

一方で、整備から約30年以上が経過し、まほろば地区を取り巻く社会環境や利用者ニーズは大きく変化している。また、気候変動や防災意識の高まりを背景として、河川空間には安全性の確保と日常的な利活用の両立が求められている。

さらに、雑草の繁茂や見通しの悪化による魅力の低下や、維持管理体制の継続が課題となっている。

加えて、バリアフリー対応は現在の利用ニーズに十分対応できていないとは言えず、誰もが安全かつ快適に利用できる環境づくりが求められているほか、木製デッキやスロープ等には老朽化や損傷が見られ、安全性や利便性の面で支障が生じている。

このように、まほろば地区では、利用者ニーズの変化への対応、安全性と持続性の確保、維持管理体制の充実及び施設の更新を図るため、再整備が必要となっている。



写真 4.1.1 古えのまほろば



写真 4.1.2 集いのまほろば



写真 4.1.3 出合いのまほろば



(2) 各拠点における現状

まほろば地区では、当初の整備により5つの親水拠点が設けられている。しかし、現在の状況を見ると、各拠点において利用状況や施設の老朽化の進行度、安全性、維持管理上の課題などに差が生じている。

以下に、各拠点の現状を整理する。

1) 古えのまほろば

- ・高水敷の一部では石畳のはがれ等が見られるものの、水辺に近づくための階段は概ね良好な状態にあり、水辺への動線は確保されている。
- ・河道内の飛び石は利用可能であるが、対岸への回遊性がなく、折り返し利用にとどまっている。
- ・河川管理用通路の宅地側や護岸沿いでは樹木の繁茂により視界が遮られており、眺望の低下に加え、防犯面での懸念がある。
- ・散策利用は見られるものの、休憩施設（ベンチ等）が十分でなく、滞在性や利便性の面で改善の余地がある。

2) 集いのまほろば

- ・広場空間が確保されており、地域の交流（お祭り等）の場として活用されている。
- ・親水面では、デッキの損傷等の影響により安全性が十分に確保されていない。
- ・スロープについては、手すりや勾配等が現行のバリアフリーの基準は満たしていない状況になっている。
- ・維持管理においても、補修対応や安全確保の面で継続的な負担が課題となっている。
- ・トイレについては設置しているものの、整備から時間が経過しており、機能や快適性の面で見直しの必要性がある。

3) 出会いのまほろば

- ・親水面では、デッキの損傷等の影響により安全性が十分に確保されていない。
- ・スロープについては、手すりや勾配等が現行のバリアフリーの基準は満たしていない状況になっている。
- ・スロープには、配管の露出があり、安全面や景観面での課題となっている。
- ・滞在性や利用促進の観点から、休憩機能の充実についても検討する必要がある。

4) ふれあいのまほろば

- ・広場空間が確保されており、地域の交流（お祭り等）の場として活用されている。
- ・ベンチや広場、舗装等の施設は概ね良好な状態を維持している。
- ・スロープについては植生の影響により、一部通行しづらい箇所がある。
- ・階段護岸を整備し、水辺へのアクセスが確保されている。

5) 憩いのまほろば

- ・地域住民の憩いの場として利用されており、散策や休憩など日常的な利用として活用されている。
- ・ベンチや四阿等の休憩施設を整備し、滞在性のある空間を形成している。
- ・横浜市認定歴史的建造物「中丸家長屋門」との調和により、良好な景観と空間環境が確保されている。

(3) まほろば拠点の景観・デザイン

前項の現状を踏まえ、本計画では、まほろば地区全体の価値や連続性を前提としつつ、再整備の検討にあたっては、特に施設の更新ニーズや課題が顕在化している「古えのまほろば」「集いのまほろば」「出会いのまほろば」の3拠点を主な検討対象として、以下に対象拠点の景観の特徴を整理する。

1) 古えのまほろばの景観の特徴

- ・ 舗装、転落防止柵は永明寺や旧大山道の名残から和のモチーフとしている
- ・ 隣接する不動橋の高欄・親柱のデザインも和のモチーフとしており統一した景観形成がされている
- ・ 周辺は、永明寺別院の白壁が特徴的な景観である
- ・ 敷地形状は河川に沿った細長い形状で、少し広がりのある通路状空間である
- ・ 護岸は景観仕様の間知石積み護岸だが3面貼りの河川形状であり段差工により川のせせらぎの音が聞こえる
- ・ 夜間は植栽が死角となり防犯面で課題がある

◆舗装デザイン 石舗装、和風デザインの車止め



◆護岸 間知ブロック積（石積み風）護岸、



◆転落防止柵 縦格子・茶色系（支柱：灯籠風、格子：波模様）



◆周辺景観要素 不動橋（和風高欄、灯籠風親柱）、永明寺（白壁）



写真 4.3.1 古えのまほろばの現況

2) 集いのまほろばの景観の特徴

- ・ 舗装、転落防止柵は洗い出しや擬木柵を用いており、自然風のデザインである
- ・ 集い橋もウッドデッキであり、高欄は和風モチーフである
- ・ トイレや倉庫・東屋はウッド調デザインである
- ・ 護岸は石積み護岸となっており、より自然的景観づくりを行っている
- ・ 河道が広がっており緩やかで空が開けている

◆舗装デザイン メイン：洗い出し舗装、滞留スペース：石舗装



◆滞留空間 天然木東屋(ウッド調デザイン)、天然木背無しベンチ



◆転落防止柵 護岸上：擬木柵(縦格子)、出合い橋：天然木(縦格子)



◆サイン 一般サイン(区内プロムナード：泉区区政推進課)、傾斜サイン(まほろば案内サイン)



◆その他施設 トイレ・倉庫：ウッド調デザイン



◆護岸 石積み護岸



写真 4.3.2 集いのまほろばの現況

3) 出会うのまほろばの景観の特徴

- ・ 舗装はインターロッキング、転落防止柵はダークグレー系の仕様である
- ・ 護岸上に親水空間を見渡せる広場が設けられており良い視点場として機能している
- ・ 上部の広場には高木が植わっており、みどり豊かな空間、木陰空間を作っている
- ・ 護岸は天然石の布積み護岸であり、景観仕様になっている
- ・ 河道が広くなっており空が開けている
- ・ 周辺の土地利用は、右岸側は宅地、左岸側は畑が広がっている

◆舗装デザイン 広場・歩道：インターロッキングブロック舗装、スロープ部：アスファルト舗装



◆その他 出入口は高木が鬱蒼としていて入りにくい印象



◆転落防止柵 右岸側：縦格子・ダークグレー系、左岸側：横桟型・ダークグレー系



◆サイン 傾斜サイン(まほろば案内サイン)



◆護岸 石積み(布積み)護岸



◆広場 高木(クスノキ, ヤマモモ, ヤマモミジ)・ベンチ(天然木)



写真 4.3.3 出会うのまほろばの現況

第5章 本計画の検討経緯

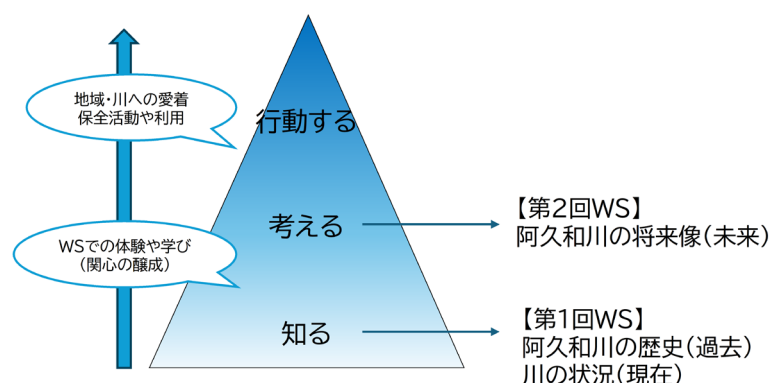
(1) 地域の意見の反映

1) 地元小学生とのワークショップによる意見収集

本計画策定にあたり、「横浜市こども・子育て基本条例」（令和7年4月1日施行）の趣旨にある子どもの意見の尊重に基づき、地域の子どもたちに阿久和川を知ってもらおうと共に、どのような川であってほしいか、また、まほろば地区の再整備がどのようになってほしいかなど、阿久和川の将来をみんなで考えることで、阿久和川、そして地域への愛着を育み、阿久和川の保全や活用への関心をもってもらうことを目的に、まほろば地区沿川の2つの小学校（岡津小学校・新橋小学校）の3、4年生約100人と全2回のワークショップを実施した。

ワークショップでは、阿久和川の水質調査や生き物観察のほか、阿久和川の将来をみんなで考えるグループワークを実施した。

ワークショップでのこどもたちの主な意見から、「自然」「景観」「安全」「地域」「利用」の5つのキーワードを将来のまほろば地区を考える上での大切な視点として、再整備計画に反映した。



1. (1日目)阿久和川を知る・体験する 令和7年10月～11月

・阿久和川の概要や歴史、川で遊ぶ際の安全講習を実施するとともに、阿久和川の水質をはかるため、COD パックテストを実施した。その後、集い・ふれあいのまほろばに移動しライフジャケットを着て、川の中で網を使って魚などの生き物を採り観察した。

2. (2日目)将来の阿久和川まほろばを考える 令和7年10月～11月

・グループに分かれ、どんな川であってほしいか、川でどんなことをしたいかなど理想の阿久和川まほろばについてまとめた。



写真 5.1.1 小学生とのワークショップの様子（1日目）



写真 5.1.2 小学生とのワークショップの様子（2日目）

表 5.1.1 小学生の主な意見

自然	景観	安全	地域	利用
自然環境を 育て、守る	きれいな景観を つくり、残す	だれもが安全に 安心して使える	地域の人と繋がり 交流できる	快適に、便利に 利用できる
・生き物を増やす ・虫捕り ・自然を増やす ・芝生 ・花壇・お花畑 ・桜 ・木・森 ・生き物の 展示・観察 など	・きれいな川 ・花の植栽 ・ゴミを減らす ・芝生・緑化 ・花壇・桜並木 ・川の絵 ・展望台 ・イルミネーション など	・注意喚起看板 ・スロープ ・手すり ・街灯 ・点字ブロック ・車いすの利用 ・みんなのトイレ ・段差解消 など	・ゴミを減らすイベ ント ・お祭り ・生き物観察会 ・休憩場所・広場 ・ピクニック ・魚釣り大会 ・散歩コース など	・お花見 ・散歩 ・休憩 ・芝生広場 ・ベンチ ・水道・洗い場 ・ゴミ箱・看板 ・お店 など

2) 地域住民との意見交換

本計画策定にあたり、検討段階から地域住民（中川連合自治会・新橋連合町内会）への説明会を開催し、その中で意見交換を行い、地域の実情や利用状況、再整備に対する考えや要望の把握に努めてきた。説明会では、地域住民が日常的にまほろば地区とどのように関わってきたのか、また将来にどのような姿を期待しているのかについて、多様な意見が寄せられた。

具体的な意見としては、自然を感じながら散策や休憩ができる場を維持してほしいこと、子どもや高齢者が安心して利用できる安全な川づくりを進めてほしいこと、子ども達にとっての環境教育の場であること、生き物が継続して生息できるような環境への配慮を求める声が多く寄せられた。一方で、将来的な維持管理が適切に行われるのかといった不安も示された。

これらの意見交換を通じて、まほろば地区は単なる河川空間としてではなく、地域の暮らしや生活と密接に結びついた存在であることを改めて確認した。

本計画では、地域住民の意見を踏まえ、地域に親しまれる水辺空間の形成、安全性の確保、自然環境への配慮、維持管理の容易性という観点等を重視し、再整備方針および具体的な整備内容の検討を行った。

1 まほろば地区再整備の進め方について

令和7年9月 連合町内会定例会



2 まほろば地区再整備に関するコンセプト等について 令和7年12月 連合町内会定例会



3 まほろば地区再整備に関する整備内容について

令和8年3月 連合町内会定例会



4 阿久和川【まほろば地区】河川環境再整備計画(案)について

令和8年7月 泉区連長会



写真 5.1.3 地元説明会の様子

(2) CVMアンケート調査による便益・価値評価

1) CVM 調査の概要

まほろば地区における河川環境再整備については、限られた公共資源を有効に活用する観点から、事業に要する費用に対してどの程度の便益が社会にもたらされるのかを客観的に把握する必要がある。このため、本再整備事業が持つ環境的・社会的効果を金銭価値として整理し、事業の妥当性や有効性を検証することを目的として、費用便益分析（B/C）を実施した。

この費用便益分析において、河川環境の改善や親水性の向上など、市場で直接取引されない価値については、国土交通省が示す「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」に基づき、それらの便益を定量的に把握する手法として仮想評価法（CVM：Contingent Valuation Method）を採用した。

<アンケート調査の実施概要>

- ・ 目 的：WTP（支払意思額）推計
- ・ 調査方法：住民基本台帳を標本データベースとした郵送配布・郵送回収、WEB回答併用（調査票を受け取った方のみWEB回答可）
- ・ 実施期間：令和8年3月12日（木）～3月23日（月）
- ・ 調査範囲：整備区間から1.5km圏
- ・ 配 布 数：2,500世帯
- ・ 回 収 数：953票（郵送573票・WEB 380票）
- ・ 回 収 率：38.1%（郵送22.9%・WEB15.2%）

2) 有効回答の特定

WTP（支払意思額）の推計にあたっては、まず、負担金に対する回答が得られていないものや、回答内容に矛盾があり支払意思額を特定できない結果については、分析対象から除外した。

次に、調査対象者が本事業によって発現する効果を十分に理解・認識しないまま回答している可能性を考慮し、回答の妥当性を確認するための検討を行った。具体的には、負担金を「支払わない」と回答した理由をもとに、調査手法や支払形式に対する反対意見として表明された抵抗回答を抽出するとともに、負担金を「支払う」と回答した理由から、事業内容の理解が不十分と判断される無理解回答を把握した。

これらの抵抗回答および無理解回答は、CVMの趣旨に基づく適切な評価結果を得る観点から無効回答として扱い、分析対象から除外し、有効回答は667票となった。

表 5.2.1 有効回答数と有効回答率

	とりまとめ	
回答票数 (A)	953	100.0%
利用不可データ (B)	11	1.2%
利用可能データ (C)	942	98.8%
支払わない	270	28.3%
うち抵抗回答数 (D)	167	(61.9%)
支払う	672	70.5%
うち無理解回答数 (E)	108	(16.1%)
無効回答 (F=D+E)	275	28.9%
有効回答数 (G=C-F)	667	70.0%

※利用不可データとは、無回答や支払意思額の回答に矛盾が生じており支払額が特定できないもの

※（ ）の割合は、「支払わない」あるいは「支払う」を母数に算出

3) WTP の推計

有効回答667票を用いてパラメトリック法（モデル推計）によりWTP平均値を推計した。

過大推計とならないよう最大提示額の4,000円/月で裾切りを行った結果、WTPは408円/月と推計された。

表 5.2.2 各段階の賛成率

	1 段階	2 段階	3 段階	4 段階	5 段階	6 段階	7 段階
提示額 (円/月)	50	100	200	500	1,000	2,000	4,000
有効票	667						
賛成票	564	473	325	154	61	17	5
賛成率	84.6%	70.9%	48.7%	23.1%	9.1%	2.5%	0.7%

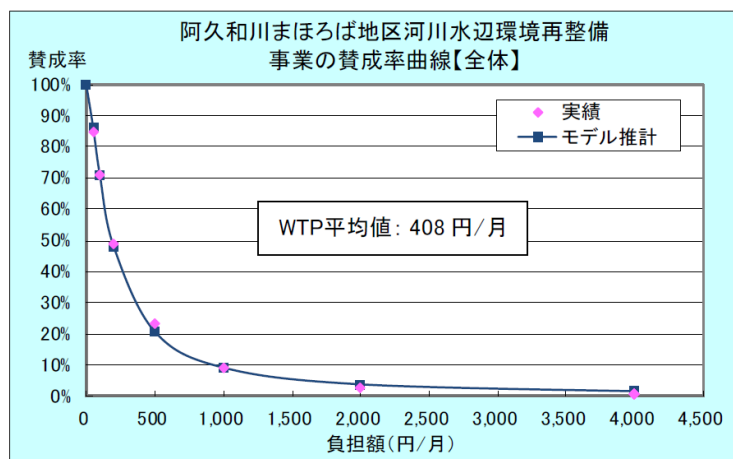


図 5.2.1 賛成率曲線のグラフ

4) 費用便益分析

「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」に基づき、下記に示す算定条件にて費用便益分析を実施した。その結果、**B/Cは6.5**と算出された。

<B/C算定条件>

- ・評価基準年度：令和8年度
- ・社会的割引率：4%
- ・事業期間：R9～R13
- ・評価期間：事業期間+50年間
- ・事業費：486百万円（税抜き）、年度別事業費は表 9-22参照
- ・年間維持管理費：2.4百万円/年（税抜き）、事業完了翌年度から計上
- ・残存価値：非計上
- ・WTP：408円/月
- ・世帯数：35,311世帯（受益範囲1.5km）
- ・年便益：172.9百万円/年、事業完了翌年度から計上
- ・デフレータ：将来の事業であるため無考慮

表 5.2.3 B/C 算定結果

総便益 (B)	3,052.9百万円
総費用 (C)	470.3百万円
費用便益比 (B/C)	6.5
純現在価値 (B-C)	2,582.6百万円
経済的内部収益率 (EIRR)	23.6%

5) CVM 調査自由意見の分析結果

CVM 調査で得られた自由意見について共起ネットワーク分析を実施した（図 5.2.2）。その結果、自然とのふれあいや生き物観察、安全に利用できる水辺空間への期待のほか、地域の憩い・交流の場としての役割が求められていることが確認された。また、河川空間の維持管理に関する意見も見られ、良好な水辺環境を持続的に維持していくことへの期待がうかがえた。



（図：生成 AI にて作成）

図 5.2.2 自由意見から見た阿久和川で期待される価値

第6章 まほろばの再整備方針

(1) 再整備対象拠点の考え方

まほろば地区には親水拠点が5拠点存在するが、本計画では、まほろば全体としての魅力と安全性の向上を効果的に図るため、現地での利用状況、拠点としての役割、施設の更新ニーズ等を総合的に勘案し、再整備の必要性および優先度が高い3拠点（古えのまほろば、集いのまほろば、出合いのまほろば）を主な再整備対象とする。

残る2拠点については、現在の利用状況や周辺環境との関係性を踏まえ、当面は現況を生かしながら適切な維持管理を行い、まほろば全体の連続性や魅力を保つことを基本とする。

なお、今後の利用状況の変化や地域ニーズの高まり等を踏まえ、必要に応じて、再整備や施設機能の見直し等の対応を検討するものとする。

(2) 再整備のテーマ

まほろば地区の再整備にあたっては、河川が持つ治水機能を確保しつつ、地域にとって身近で親しみのある水辺空間としての価値を高めることを基本とする。

特に、地域住民や子どもたちを対象としたワークショップ等を通じていただいたご意見を踏まえ、人が川に関わり、まちとのつながりを実感できる空間づくりと、生き物が生息しやすい水辺環境の創出を一体的に進めることを目指す。

これにより、人・まち・生き物が相互につながり、将来にわたって大切にされ、育まれていく川づくりを実現するものとし、本再整備のテーマを次のように設定する。

「ひと・まち・生きものがつながる川づくり」

“阿久和川まほろば”は、これまで日々の暮らしに寄り添う親水空間として、多くの市民に親しまれてきた。この歴史を守り、未来に継承していくため、次項の3つのコンセプトを掲げ、阿久和川を中心に緑や生物・地域の人々・まちがつながり豊かになる、「素晴らしいところ＝“まほろば”」の川づくりを進めていく。

(3) 再整備の方針(川づくりのコンセプト)

前項に示した再整備のテーマ「ひと・まち・生きものがつながる川づくり」を具体的に推進していくため、まほろば地区の再整備において重視すべき視点を整理し、計画全体の方向性を示す考え方として、次の3つのコンセプトを設定する。

これらのコンセプトは、地域住民や子どもたちを対象としたワークショップ等を通じていただいた意見等を踏まえ、誰もが快適に利用でき、地域に開かれた河川空間の形成と、ネイチャーポジティブの考え方に基づく自然環境の保全・再生が相互に調和する川づくりを目指すものである。

1) みんなにやさしい川

⇒ ユニバーサルデザインの考え方を推進し、年齢や障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まで多様な人々が利用しやすい河川空間の形成を図る。さらに、動線や水辺へのアクセスに配慮するとともに、日常的な散策や滞在、学習活動など、様々な利用が可能な環境を整えることにより、誰もが安心・安全で快適に過ごすことができる“まほろば”を目指す。

2) 地域とともに育む川

⇒ 河川空間を地域の暮らしや活動と一体的に捉え、地域に開かれた川づくりを進める。さらに、地域住民が気軽に立ち寄り、親しみを持って利用できる拠点となる空間づくり（ハード）と、地域住民や関係者が参画する持続可能な管理及び活用の仕組みづくり（ソフト）をあわせて検討することで、河川を介した人と人とのつながりを育み、地域の人々が憩い、集い、交流し、地域とともに育てていく“まほろば”を目指す。

3) 自然とともに生きる川

⇒ 河川が本来有する自然環境の価値を大切にし、ネイチャーポジティブの視点を取り入れた川づくりを進める。さらに、生き物の生息・生育環境に配慮した水辺環境の保全・改善を図るとともに、人が自然にふれ、学び、親しむことができる空間を確保することで、みどりのある豊かな生活環境の形成を目指し、生きものや植物と共生できる豊かな自然環境がある“まほろば”を目指す。

(4) 施設再整備にあたっての基本的な考え方

まほろば地区の施設再整備にあたっては、河川が有する治水機能を確保した上で、親水性や利活用の向上を図るとともに、将来にわたり安全かつ持続的に利用される河川空間となるよう、基本的な考え方を以下のとおり整理する。

※下記の【】内は、ワークショップでのこどもたちの主な意見を踏まえ、「自然」「景観」「安全」「地域」「利用」の5つの視点との関連を示したもの

1) 安全性への配慮【安全】【利用】

親水利用を前提とした施設再整備にあたっては、転落防止、見通しの確保等の安全性に十分配慮する。

また、降雨や増水時など河川特有の状況変化を踏まえ、平常時と増水時の双方を想定した施設計画とするとともに、河川の特性や利用上の注意点について利用者の理解を促すため、分かりやすい案内看板を適切に配置するとともに、警報装置の設置など、安全に配慮する。

2) ユニバーサルデザインへの配慮【安全】【地域】【利用】

年齢や障がいの有無、利用目的の違いにかかわらず、多様な利用者が安全かつ快適に利用できる河川空間の形成を図るため、ユニバーサルデザインを推進する。

水辺へのアクセスについては、段差や勾配、幅員等に配慮し、車いす利用者や高齢者、子ども連れなども無理なく利用できる構成とする。また、案内表示やサイン計画についても、誰にとっても分かりやすい情報提供をすることで、利用者が安心して河川空間を利用できる環境づくりを進める。

3) 維持管理性・耐久性への配慮【安全】【利用】

再整備後の維持管理を見据え、耐久性や維持管理性に配慮した構造および材料を採用する。

併せて、日常的な点検や清掃が行いやすい構成とし、過度な管理負担を生じさせない計画を基本とする。

4) 景観・周辺環境との調和【自然】【景観】

まほろば地区が有する歴史的背景や自然環境、周辺景観との調和を重視し、過度に人工的なデザインを避けることを基本とする。

各拠点の特性や個性を尊重しつつ、景観や素材、デザインの考え方において共通性や連続性を確保することで、拠点ごとの違いを生かしながら、まほろば地区全体としての魅力向上につながる施設構成とする。

5) 自然環境への配慮【自然】【景観】

生物の生息・生育環境や河川環境への影響に配慮し、植栽や構造物の配置等については、自然環境との調和を図る。

ネイチャーポジティブの考え方を踏まえ、河川環境の保全・創出に資する再整備を行う。

(5) まほろばでの体験と役割

まほろば地区では、それぞれの拠点が異なる特徴や魅力を有しており、利用者は川との関わり方に応じた様々な体験を得ることができる。再整備にあたっては、各拠点の現状や地域の意見、ワークショップで得られた意見等を踏まえ、まほろば地区全体で提供する体験価値を整理した上で、それぞれの拠点が担う役割を表 6.5.1 のとおり整理した。

表 6.5.1 まほろばでの体験と役割

体験	古え	集い	出合い	ふれあい	憩い
① 生き物や自然を発見し、楽しむ	★	★	★★★★	★★	★
② 川に近づき、水辺を体感する	★★★★	★★	★★★★	★★★★	★
③ 学び、発見を深める	★★	★	★★★★	★	★★
④ 季節や景観を楽しみ、憩う	★★★★	★★	★	★★	★★★★
⑤ 歩いて巡り、日常的に利用する	★★	★★★★	★	★	★★
⑥ 人と地域とつながる	★	★★★★	★	★★	★

(6) 各拠点の検討

1) 古えのまほろば

『周辺の景観と調和し、なつかしさや風情を感じる水辺空間』



図 6.6.1 古えのまほろばイメージパース

① 再整備の基本的考え方

「古えのまほろば」は、前節で整理した体験と役割を踏まえ、阿久和川周辺に残る歴史的・文化的資源、水環境資産や原風景を生かし、歴史を感じながら散策し、水音や川の流れを楽しみ、静かに滞在できる水辺空間として位置づける。周辺の景観と調和した水辺空間の形成を通じて、地域の歴史を次世代へ継承するとともに、日常的に親しまれる河川空間の創出を目指す。

② 再整備におけるキーワード

原風景の体験

③ 再整備の視点（自然・景観・安全・地域・利用）

- 阿久和川の歴史や流れを感じながら散策できること
- 飛び石を渡るなど、水辺に親しみながら川との触れ合いを楽しめること
- 水音や落差工、川の流れを眺めながら、河川空間の魅力を視覚的・聴覚的に感じられること
- なつかしさや風情のある景観の中で、静かに滞在できること

- 遊歩道から安全に川を眺めることができ、誰もが安心して利用できること

④ 空間デザインコンセプト：“和”の景観デザイン

再整備にあたってのデザインコンセプトは、現況の景観や当初整備時の考え方、本計画のコンセプトを踏まえ、「和」を基調とした景観形成を基本とする。

- 永明寺や旧大山道等の歴史的資源との関係性を考慮し、周辺景観と調和したデザイン
- 明るく見通しの良い遊歩道を確保し、年齢や利用目的を問わず、安全かつ快適に利用できる空間

⑤ 再整備のポイント：

目や耳で阿久和川の歴史を感じ、なつかしさを風情を楽しむ場

- 「古えのまほろば」から「集いのまほろば」へ連続する川沿いの散歩道により、憩いと回遊性のある空間を形成する
- 歩道から川を安全に眺めることのできる場を整備することで、川を身近に感じられる日常的な利用環境を確保する

⑥ 再整備概要

遊歩道の改修を行い、安全な歩行空間・滞留空間を創出するとともに、川辺へ近づきやすい環境を整えることで、水音や流れを身近に感じながら、日常的に川に親しみ、眺められる空間を創出する。

2) 集いのまほろば

『にぎわいと憩いが調和し、多様な活動が生まれる水辺空間』

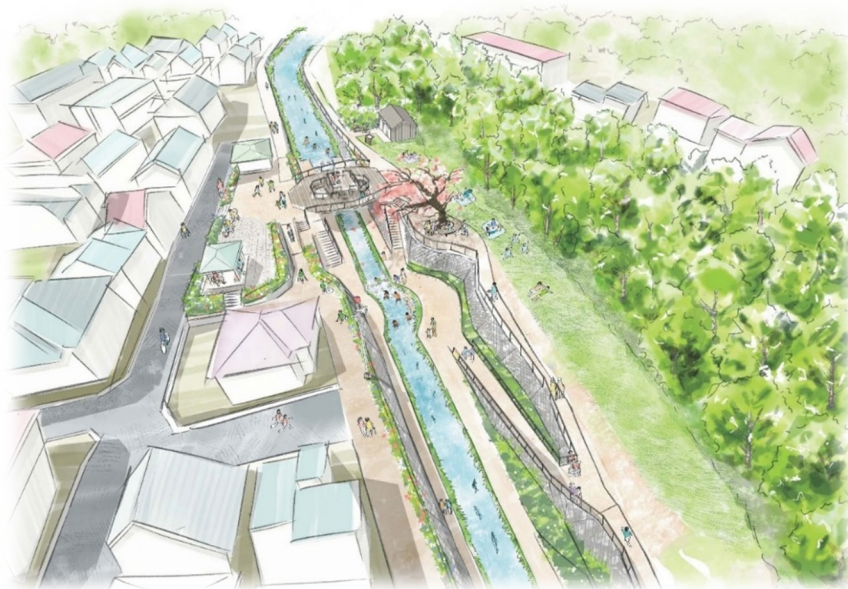


図 6.6.2 集いのまほろばイメージパース

① 再整備の基本的な考え方

「集いのまほろば」は、前節で整理した体験と役割を踏まえ、地域に親しまれてきた利用環境や地域活動を支える価値を継承し、多様な世代が思い思いに過ごせる水辺空間として位置づける。水遊びや生き物観察といった川ならではの活動から、ゆったりと過ごす滞在利用まで、多様な利用をすることができる空間を整備することで、人々の関わりが生まれ、広がっていく水辺空間の形成を目指す。

② 再整備におけるキーワード

阿久和川の魅力発信

③ 再整備の視点：自然 景観 安全 地域 利用

- 阿久和川の生き物や歴史等について、わかりやすく情報発信できること
- 川との関わりや地域活動への参加を通じて、地域への愛着や親しみを育むことができること
- 散歩や休憩、水辺を眺めることに加え、遊びや見守りなど、それぞれの目的に応じた時間を過ごせること

- 人々の交流が生まれ、新たなつながりや地域との関わりの輪が広がっていく空間であること

④ 空間デザインコンセプト：木材を主体とした自然的景観デザイン

現況の景観や当初整備時の考え方、本再整備計画のコンセプトを踏まえ、木材を主体とした自然的で親しみやすい景観形成を基本とする。

- 親しみや温もりを感じられる木材をモチーフとしたデザインとし、水辺空間への心理的な近づきやすさを高める
- にぎわいのある活動と落ち着いた滞在利用が共存できるよう、同一空間で共有できるデザインとする

⑤ 再整備のポイント：

地域への愛着・人々の関わりの輪が広がる、

誰もが集える阿久和川の魅力あふれる場

- 水遊びや生き物採りができる動的なエリアと、芝生等でゆったり過ごせる静的なエリアを整備し、用途や気分に応じて多様な利用が可能な空間とする
- スロープやデッキの改修を行い、車いす利用者や高齢者なども水辺に近づけるよう配慮することで、誰もが利用しやすい拠点とする

⑥ 整備概要

地域のお祭りや定期的なイベントの開催場所として活用できるよう、親水空間において、既存デッキの改修およびスロープ等の機能向上を行う。

3) 出会いのまほろば

『自然に親しみ、発見や気づきが広がる水辺空間』



図 6.6.3 出会いのまほろばイメージパース

① 再整備の基本的な考え方

「出会いのまほろば」は、前節で整理した体験と役割を踏まえ、阿久和川の自然環境に直接触れることを通じて、人と川との関りを深める水辺空間として位置づける。川や植物、虫、魚、鳥など多様な生き物との出会いを大切にし、観察や学びのきっかけとなる水辺空間を整備することで、自然への理解や愛着を深める場の形成を目指す。

② 再整備におけるキーワード

新たな出会い/ 発見・気づき

③ 再整備の視点：自然 景観 安全 地域 利用

- 自然環境と出会い、新たな発見や気づきが生まれる場であること
- 水辺に近づき、川の流れや自然を体感できること
- 野鳥をはじめとした生き物が集まりやすい環境を確保すること
- 川や動植物を落ち着いて観察できる休憩施設や滞在空間を備えること
- 発見や学びを共有し、交流が生まれること

- ④ 空間デザインコンセプト：自然環境やみどりが主役となる自然景観デザイン
再整備にあたっての空間デザインは、現況の景観や当初整備時の考え方、本計画のコンセプトを踏まえ、自然やみどりを主役とした景観形成を基本とする。
- 自然（みどり）をモチーフとしたデザインとし、周辺環境になじむ落ち着いた空間とする
 - 川、植物、虫、魚、鳥といった多様な自然環境や、生き物の変化、季節の移り変わりを感じられる空間構成とする

⑤ 再整備のポイント：

阿久和川の自然環境（川、植物、虫・魚・鳥）に出会い、

新たな発見・気づきが生まれる場

- 野鳥が集まりやすい環境づくりとあわせて、観察が可能な休憩施設を整備する
- スロープやデッキの改修を行い、車いす利用者や高齢者なども水辺に近づけるよう配慮する
- 時代や自然環境の変化に応じて柔軟に活用でき、それ自体の変化も楽しめるよう、維持管理のしやすい構造・素材を採用する

⑥ 整備概要

沿川地域の住民が日常的に集い、憩い・交流の場として利用できる空間の創出を目的に、デッキやスロープの改修を行い、水辺や生き物に親しめる環境を整備する。あわせて、休憩施設の整備を行い、誰もが快適に過ごせる「出会いのまほろば」として再整備を図る。

(7) まほろば再整備全体イメージ

再整備後のまほろば地区における全体イメージは、図6.7.1のとおりである。

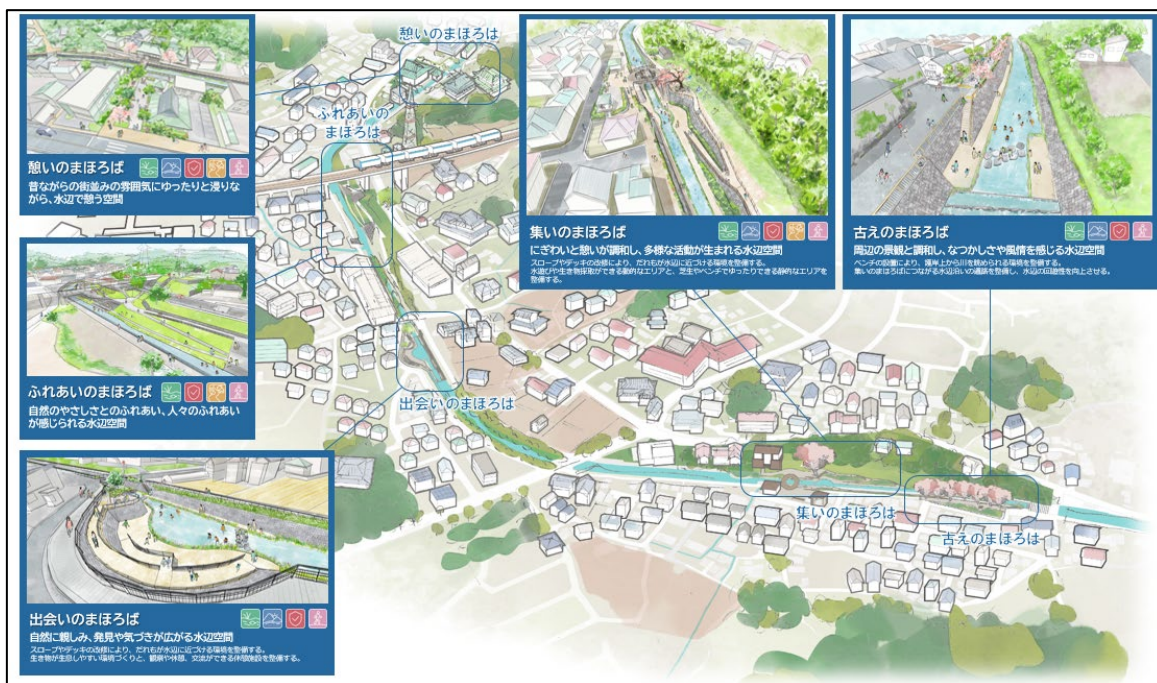


図 6.7.1 まほろば全体イメージ図

各拠点における当初整備時のコンセプトと、再整備において整理したコンセプトを表 6.7.1 に示す。

表 6.7.1 まほろば各拠点コンセプト対照表

拠点名	当初整備コンセプト	再整備コンセプト
古えのまほろば	水音のざわめきに包まれて、街の歴史を味わう水辺空間	周辺の景観と調和し、なつかしさや風情を感じる水辺空間
集いのまほろば	老人から子どもまで地域の人々が集い、活動する水辺のにぎわい空間	にぎわいと憩いが調和し、多様な活動が生まれる水辺空間
出会いのまほろば	日々の暮らしの中で人と川が出会い、また人と人が出会う水辺空間	自然に親しみ、発見や気づきが広がる水辺空間

(8) 拠点間の連携と回遊性の考え方

本計画では、「古えのまほろば」「集いのまほろば」「出会いのまほろば」の3つの拠点を、それぞれ独立した空間として再整備するのではなく、阿久和川に沿って連続的につながる一体的な水辺空間として捉え、拠点間の回遊性や関係性を重視した整備を行う。

川沿いの遊歩道を軸として各拠点をつなぐことで、歩くことで景観や雰囲気、利用の仕方が徐々に変化していく構成とし、利用者が移動そのものを楽しめる空間形成を図る。

また、各拠点のコンセプトを踏まえた植栽や舗装、施設デザインの工夫により、拠点ごとの個性を感じながらも、全体として統一感のある景観を形成する。

「古えのまほろば」では、落ち着きや風情を感じながら川と向き合う静的な空間を起点とし、「集いのまほろば」では、人々が集い、活動や交流が生まれるにぎわいの拠点へとつながる構成とする。さらに「出会いのまほろば」では、自然環境に親しみながら学びや発見が広がる空間へと展開させることで、拠点を巡る中で川との多様な関わり方を体験できる流れをつくる。

あわせて、案内表示等により各拠点の位置や特徴が分かりやすく伝わる工夫を行い、初めて訪れる人でも安心して回遊できる環境を整える。これにより、散策や滞在、学習、交流といった多様な利用が自然に連なり、阿久和川全体を一つの魅力的な水辺空間として感じられる再整備を目指す。

(9) 再整備後の利活用に関する基本的な考え方

親水利用、地域交流をはじめとした各種イベントや環境学習活動等は、再整備後における河川空間の重要な役割の一つとして位置づける。

再整備にあたっては、安全で利用しやすい親水空間や滞在空間を確保し、地域住民による日常的な利用に加え、地域行事や学校等による学習活動が実施される環境を整備する。

併せて、地域関係者と情報共有や意見交換を図りながら、利用実態や地域の状況を踏まえた活用が継続的に展開されるよう取り組み、河川空間の利活用の促進を図る。

第7章 今後のスケジュール

再整備は、「出会いのまほろば」「集いのまほろば」「古えのまほろば」の3つの拠点を段階的に整備し、全体期間は概ね5か年を想定して取り組むものとする。

地域のニーズや整備効果を考慮し、令和9年度に「出会いのまほろば」の整備着手を皮切りとし、「集いのまほろば」、「古えのまほろば」へと展開していく。

なお、本スケジュールは現時点での想定であり、社会情勢の変化や関係機関との調整状況、地域ニーズ、事業の進捗等に応じて、必要に応じて整備時期を柔軟に見直すものとする。

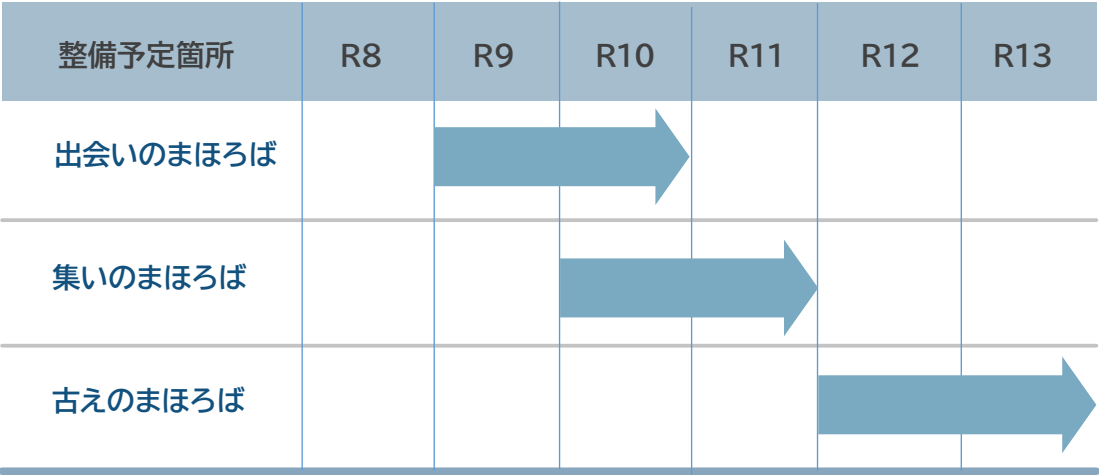


図 7.1.1 今後の整備スケジュール（予定）

発 行：令和 8 年 9 月

発行元：横浜市下水道河川局河川部

住 所：横浜市中区本町6丁目50番地の10

電 話：045-671-4215

Eメール：gk-kasenchosei@city.yokohama.lg.jp

